

## (公社) いわき青年会議所 副理事長意見書

副理事長 山田 賢司

1       ここ、いわきに J C が産声をあげてから半世紀、これまで多くの先輩方が知恵と情熱を  
2 注ぎ込み、この故郷を創ってきたと言っても過言ではありません。我々は今、未来の青年  
3 たちから今を預かる青年としての意識と責任を持ち、行動していかなければなりません。  
4 会員個人の成長は組織の成長そして地域の発展へと繋がります。そのためにも失敗を恐れ  
5 ず何事にも果敢に挑戦し、会員が成長できるたくましい組織を確立しなければなりません。  
6       まずは、我々青年が一致団結し地域社会発展の活力となれるよう、会員同士はもちろん  
7 先輩方や関係諸団体との絆をより深め、これからの J C 運動をさらに進化させていく必要  
8 があります。そして、市民を巻き込んだ運動展開を可能にするため、市民の方々に向けて、  
9 いわき J C がどのような団体で、どのような理念を持って活動しているのかを広く発信し、よ  
10 り多くの市民に共感していただくことが必要です。さらに、これまで受け継がれてきた我々  
11 の運動をさらに進化させるため、会員が一丸となり一人でも多くの仲間を迎え入れ、新た  
12 な仲間が組織の一員として自覚と誇りをもって活動できるよう、学びと経験の場が必要で  
13 す。また、毎年 40 歳を迎えた会員は、それぞれの地域を牽引するリーダーとして卒業を  
14 迎えます。その限られた時間の中で会員が積極的に活動に参加できるよう、いわき J C の  
15 活動に対する理解と参加意欲の向上は必須です。そして、活動の中で会員が様々な機会に  
16 気づき、その機会を逃すことなく自らの手で掴み取り成長できるたくましい組織を確立す  
17 るため、会員個人の成長や会員企業の発展に繋がる機会を創出しなければなりません。  
18       会員一人ひとりが様々な機会に気づき、その機会を十分に活かし、何事にも果敢に挑戦  
19 することで、会員個人が知識と意識の伴う人財へと成長します。会員個人の成長は、組織  
20 の成長へと繋がり、心が通う J C 運動による、たくましい「いわき」の創造が実現します。